

Key word 【右片麻痺】 【ハローワーク利用】 【障害者雇用】

ハローワークを通じて、障害者雇用枠にて就労へと繋げた事例

対象者 20歳代・男性 主診断名 びまん性脳損傷・外傷性くも膜下出血 障害名 右片麻痺

本人と家族の就労希望の乖離



- 本人は復職希望だが、家族は今の状態に合った仕事を希望している。
- 本人が納得して前向きに希望しなければ、次に進まないため、個人面談による意思確認を何度か行った。

就職活動について



- サービス利用期間の終了が迫ってきた中、前職以外の職種を面接したところ、他職種にも興味を示すようになった。
- 就労準備として、公共交通機関を使っての通勤訓練、業務内容を想定しての机上訓練を行った。

Point!!

- 本人の資質と職務内容が合っているかが重要である。その人を知り、現状の課題を把握したうえで、優先課題を整理して見合った資源を探していく。
- 本人の意向と親の意向が異なる場合は、親側の意向について本人が考える機会をつくることも必要である。
- 就職活動で不採用になった際に、期間を空けずに別の求人を勧めることで、本人のモチベーションが下がらないよう工夫した。